

物産展で東北地方を支援

大阪・東住吉組 復興支援の会

東日本大震災で被災した東北地方の人々を支援しようと、大阪教区東住吉組（東）の僧侶、門信徒が中心となって構成する大阪遊ゆうCLUB復興支援の会「がんばっぺ東北」

（天岸晃正代表）は7月11日、東北地方の特産品を販売する「ふるさと物産展」を、大阪市中央区の津村別院境内で開いた。

ら、現地の農家や商店などを紹介してもらい、ネットなども利用して特産品を購入。購入経費は、協賛金として組内をはじめ、大阪全体に呼びかけて集めた。

久堀豊善組長は「いろいろな所から協力、応援をいただきありがたい。できるかぎり続けていきたい」と話している。



福島県や宮城県を中心に、東北全県から集めた、みそ、しょうゆ、うどん、そば、きゅうり、トマト、さくらんぼ、ももなどを販売。昼休み中の会社員や同別院での研修会参加者などたくさんの方が訪れ、特産品を購入していた（写真）。

東北の被災地でボランティア活動をした僧侶や門信徒らか